

音楽の時間に能楽・狂言を学ぶ

今年、遺愛の専任教員になった白須先生に音楽の授業を見学させていただきました。白須先生は今年専任になったとはいえ、常勤講師として数年勤めていただいているので授業力は申し分ないです。遺愛中学3年生の授業でしたが、題材は『能楽・狂言』、見学した時間の授業は『狂言 茸（くさびら）』でした。遺愛では中2でやはり音楽の時間に『歌舞伎・文楽』を扱っています。中2の時に生徒たちはその物語性や演出に、担当者の予想以上に関心をもって学習していたとのことでした。

私自身は、日本の古典芸能については、歴史の時間に断片的な知識として学びましたが、芸能そのものを学んだことはありません。どこか取っ付きにくく、難しいという印象を持っており、中学3年生にどのように教えるのか、とても興味をもって音楽室にむかいました。

授業の導入として、まず讚美歌を歌い、リコーダーの練習をし、そして『狂言』の内容に入っていました。授業プリントを読みながら、あらすじや解説を理解した後、小さな子供にもわかりやすく編集されたDVD『にほんごであそぼ』の野村萬斎演じる『茸』を鑑賞し、さらに舞台上で演じられた本物の『狂言 茸（くさびら）』を鑑賞しました。段階的に学ぶことが出来ると、私のようなド素人でも、かなり興味深く感じましたし、生徒たちも熱心に授業に臨んでいました。

遺愛は、英語教育に力を入れ、生徒の皆さんもとてもレベルアップしてきています。そうなってくると、次の段階として、上手な英語で何を伝えるかというのが課題になってきます。諸外国のことを広く学ぶことも大切ですが、日本のことを英語でどう紹介できるかが問われてきます。遺愛生は日本の古典芸能についてもしっかりと紹介できる力がついてきているようです。

2018年11月16日



導入として、立って讚美歌30番を歌う。



リコーダー指導



狂言についてのDVD鑑賞